



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I, V 】
2 実施対象者	登米市立東和中学校 全校生徒（男子57名, 女子70名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育） ② 行事名（運動会 パラリンピアン講演会） ③ その他（掲示物コーナーの設置）
4 目標 (ねらい)	パラリンピック参加者の講演や障がい者スポーツの体験等を通して、障がい者に対する理解を深めるとともに、困難に負けず夢や目標を叶えようとするたくましい心身の育成を図る。
5 取組内容	<p>1 オリンピック・パラリンピックコーナーの設置(全校生徒対象) 1階昇降口前に「オリパラコーナー」を設置した。オリンピックの歴史や、本校で運動会にて実施している聖火ランナーの歴史を写真展示により紹介した。</p>  <p>2 運動会において、聖火リレーを実施(全校生徒対象) 本年度の運動会開会式において、聖火リレーを実施。本校3年生の部活動で活躍が顕著であった生徒4名による聖火リレー・点灯を行い、また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの紹介を放送アナウンスに入れた。生徒だけでなく、観客できていた保護者・来賓に対しても東京オリンピック・パラリンピックに向けてのメッセージを発信する機会となった。</p> 

3 パラリンピックについての学習会(1年生対象)

パラリンピックの動画を鑑賞し、パラリンピックが行われるきっかけになったアーチェリー大会のことや、現在実施されているパラリンピック競技の種類や競技の特徴について映像を通して学習した。障がいを持つ選手達の感動的な取組を見て、生徒達は自分の可能性についても考えを深めることができた。また、東京オリンピック・パラリンピックではどのような形で参加したいかを考えさせ、生徒が、「応援」から「ボランティア」「選手」などと考えを深めることができた。



4 パラリンピアン講演会の実施(全校生徒対象)

(1) 世界のパラリンピック選手の活躍についての紹介(動画)

1年生対象に見せた動画と講師の先生が持参した動画を全校生徒で視聴し、パラリンピックについてより考えを深めた。



(2) パラリンピアンによる講演

本校出身でアテネパラリンピックアーチェリー競技「団体銀メダリスト」の小野寺公正さんによる講演を実施。



本人の体験談やパラリンピックの説明を聞き、「やればできる」という公正さんのメッセージに多くの生徒が共感し、自分の未来の可能性を広げることができたようである。

(3) 質問コーナー

生徒達のたくさんの質問に対し、誠実に回答をいただいた。

(4) 感想・アンケートの記入[122名]

A:とても良かった B:よかった C:ややよくなかった D:よくなかった

[パラリンピックへの理解の深まり]

A:107名 B:14名 C:1名 D:0名

[東京オリンピック・パラリンピックへの興味関心の向上]

A:82名 B:36名 C:4名 D:0名

[地元選手の活躍理解]

A:110名 B:12名 C:0名 D:0名

[夢に向かっての意識の向上]

A:99名 B:21名 C:2名 D:0名

[感想]

- お話を聞いて何事もすぐあきらめるのではなく、「継続していくこと」が大切だということ。今できることから、チャレンジしていきたい。
- どんな障がいを持っていても、「なんとしてもその競技をやって

やる！」という気持ちがすてきだと思った。

- ・障がいのある人はない人に比べて大変な不利な点があるのに、自分の限界に挑んでいるのはすごいと思いました。
- ・世界にはいろいろな人がパラリンピックに出て活躍していることが分かりました。私も自分の限界を決めつけずにいろいろなことに挑戦したいです。
- ・今自分がアーチェリーをできているのはやはり、両親やその他の人たちのおかげなので、今回のお話で自分がどれだけの人に支えられているかを考えることができました。
- ・夢を追う心を持ち続け、たとえうまくいかなくても－(マイナス)発言はしないようにしたいです。
- ・公正さんの話は進路に悩んでいる自分を勇気づけてくれました。公正さんのように根性を持って頑張りたいです。



5 シットイングバレーボール競技体験[1年生対象]

保健体育の授業の中で、シットイングバレーボールを体験した。

- ①競技内容の映像を視聴
- ②ルール確認
- ③体験(練習・ゲーム)

始めは難しさを感じながらも楽しそうに活動していた。次第に感覚が慣れてきたようであり、最後に行ったゲームでは熱戦が繰り広げられた。



6 主な成果

- (1) アンケートの結果から、講演会及び障がい者スポーツ体験をとおして、9割5分以上の生徒の意識が向上した様子が見られる。これまでパラリンピックについて触れる機会が少なかったが、身近なパラリンピアンへの講演や体験を通して、知識が深まり、興味関心も高まったようである。
- (2) パラリンピアン講演会では障がいがあっても強い意志でそれを克服し、競技に取り組む姿勢に多くの生徒が共感することができた。また、決して諦めないことや努力を積み重ねることの大切さについて学ぶことができた。
- (3) シットイングバレー体験では、障がいの有無にかかわらず、

	<p>スポーツを通して共に楽しんだり互いに尊重しようとしたりする意識の高まりがみられた。</p> <p>(4) オリパラコーナーの活用を通し、生徒達は掲示物を毎日目にする事で、友人同士で話題にしたり、自宅でも関連するテレビ番組やニュースに興味を持って聞き入るようになったとの声も聞かれた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 地域の人材を生かした事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会の講師が本校アーチェリー部の出身であり、現在アーチェリー部のコーチをされている方である。生徒にとって、先輩であり、現在も学区内にお住まいの方に講演をしていただくことにより、オリンピック・パラリンピックを身近に考えることができた。 <p>(2) 生徒への映像の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際パラリンピック委員会公認教材「インポッシブル」を活用したことで、感動的な映像を生徒に見せることができた。 <p>(3) 地域の支援者の方の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に方のご協力をいただくことができた。東和地区にお住まいで、講師の後援会に所属している方が講演会の実施に向け、準備等で支援をいただいた。
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) 教育課程の中に位置づけていくことが難しく、担当が体育教師であったことから、体育の授業や運動会の中に計画することができた。</p> <p>(2) 担当が決まり、「事務説明会」を受け、その後の計画立案であったので前年度から準備ができればより充実できたように感じる。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) 本年度いただいた資料を生かし、保健体育の授業等で引き続きオリパラの歴史等の学習を実施する。</p> <p>(2) シットイングバレー等、パラリンピック種目の体験授業を実施する。</p> <p>(3) 本年度意識が高まったことを来年度に生かし、2020年東京オリンピック・パラリンピック成功に自分がどのように関われるか考えさせる機会を設定する。</p>